

ap bank fes'11
Fund for Japan

環境報告書

*Environmental
Report*



はじめに

2011年3月11日、日本を未曾有の大災害「東日本大震災」が襲い、多くの人が肉親や友人、そして住む家や仕事などを一瞬にして失い、日本中が深い悲しみに包まれました。

ap bankは設立からこれまで、環境問題という複雑に入り組んだ長期的な問題に取り組んできましたが、今、目の前に助けを必要としている人がいる、という事態において自分たちができることをすぐに行動に起こしたいという想いからap bank Fund for Japanをスタート。震災直後から義援金及び復興支援金の呼びかけ、炊き出し、災害復興支援ボランティア募集・派遣、児童書の寄贈などを行ってきました。

ap bankの活動において、一年で最も規模が大きく、多くの注目を集めるap bank fesにおいては、決して忘れることのできない出来事が起こったこの年、日本で活動するひとつの団体として何ができるかと、小林武史と櫻井和寿が話し合い出した答えが「これまでやってきたように今年もap bank fesを開催し、収益のすべてを復興支援に充当する」ということでした。

これまで取り組んできた環境問題の枠を超え、自ら復興支援に乗り出した2011年はap bankとしてもap bank fesにとっても新たな境地であることは間違いありませんが、立ちはだかる問題が環境であろうと災害であろうと私たちが幸せに暮らすために必要なことを実現する、という点において違いはありません。

日本がひとつになった年だからこそ出来ること。

3月11日以降のap bank Fund for Japanの活動を振り返り、ap bank fes会場の内外で行ってきた様々な取り組みについてこの環境報告書内に詳しく記していきたいと思います。どうぞ、ご覧ください。

ap bank fes '11 Fund for Japanでの復興支援への取り組み

ap bank fesはこれまで、常にその年ごとに開催するにあたっての意義を議論したうえで開催を決定してきました。また、ap bank fesの収益は、持続可能な社会創りのためのさまざまなプロジェクトの支援や推進のための費用に充てられてきました。7回目となる今回は、2011年3月11日の東日本大震災を受け、その収益のすべてを復興支援の為に使用することを前提に開催を決定。震災後に立ち上げた災害復興支援のためのプロジェクト「ap bank Fund for Japan」と連動し、イベント名称も「ap bank fes '11 Fund for Japan」としました。音楽はもちろんのこと、トークや食などさまざまな取り組みを通して東日本の復興支援に繋げていきます。「ap bank fes」らしい復興支援のかたちを、このイベントで感じていただければとの想いを込めました。

参加する ヒガシ たべ ササエさん／ヒガシ ササエさん → P.11
知る eco-reso talk → P.09
ミニトーク@eco-reso booth → P.11
復興支援活動紹介パネル、映像など → P.11
音を楽しむ koti market live『Live of Light』 → P.08
パブリックビューイング@仙台 → P.08
収益金 収益のすべてを復興支援に充当 → P.25

2011年は、日本の歴史の中でも本当に大きな転換をするきっかけの年になったと思います。多くの人々の悲しみは、到底癒しきれないものですが、未来に向かって、少しずつ歩みが始まっているとも思います。

ap bankも2011年の段階で、既に未来に向けて動き出せました。つま恋でのap bank fes、そして、Mr.Childrenでの仙台公演、本当に支持してくれている皆さんの気持ちがこの報告書を作らせてもらえるところまで、後押ししてくれたと思っています。

2012年も引き続き僕たちは、「Fund for Japan」を掲げてやっていきます。

今年もよろしくお願い致します。

「昨年の収益金の今後の支援への使い方について」

集まったお金は、まだ具体的に使い道が決まっていない部分が多いです。

昨年の早い段階で義援金という形で、県を通して被災者の方々へ寄付させていただきましたが、支援金の使い道に関しては、決して急けていたわけではないのですが、皆さんの支援があって集まった大切なお金を無駄な使い方では終わらせたくないという想いから、現在もいろいろ使い道を検討しております。

敢えて言えば、これからはやる気を持った人や団体と繋がって、復興に向けて力を合わせていかなければならないと思っています。

いま、そこに向けての就学支援や就業支援ということを視野に入れて、新たな繋がりやチームづくりを検討しております。もうしばらくしてから、どういう形になるかを皆さんにお伝えできると思いますので、その形ができてから、できれば長い年数をかけて、昨年やこれからap bankが「Fund for Japan」として得ていくお金を基金に充てたいと考えています。

2012年4月
一般社団法人APバンク 代表理事 小林武史



復興支援

ap bank Fund for Japan

東日本大震災で亡くなられた皆様のご冥福をお祈りすると共に、被災され、今も困難に直面している方々へ心よりお見舞い申し上げます。

「ap bank Fund for Japan」は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の災害復興支援のために、スタートしました。

被災地の日も早い復興のため、ap bank が主体となり、ap bank に関わって

くださったアーティストや関係各位をはじめ、ap bank を応援してくれている多くの方々とともに、自分が出来ることをそれぞれの形で支援できるようさまざまなプロジェクトを行ってきました。



Music | 音楽でつながる

“音楽の力”で、少しでも多くの人々に“想い”と“Action”を伝え、人と人が繋がり広がっていくことができると信じて、賛同してくれるアーティストたちと共に活動をしています。

イベント収益金を東日本大震災の復興支援に充てる、イベントやウェブサイトを通じて情報を発信し人を繋げる場を創るなど、音楽を通じて復興支援について考える、参加する、サポートするといったActionのかたちを提案します。



● **ap bank fes '11 Fund for Japan** / 2011年7月16日、17日、18日
収益金は全て ap bank Fund for Japan を通じて復興支援に充当

● **パブリックビューイング@仙台**

宮城県仙台市で ap bank fes '11 Fund for Japan 3日間の全ライブステージを生中継。来場者数 3日間合計約 4,000 人

● **Mr.Children STADIUM TOUR 2011 SENSE -in the field- 宮城公演** / 2011年9月24日、25日
本公演は ap bank 主催で開催され、収益金は全て ap bank Fund for Japan を通じて復興支援に充当

● **TOKYO DESIGNERS WEEK2011 [ARIGATO PROJECT]**
× **ap bank Fund for Japan「歌の炊き出し」** / 2011年9月14日、21日、27日、28日
TOKYO DESIGNERS WEEK2011 が、被災地で行った小・中・高生向けの「ARIGATO ワークショップ」と連動し、ap bank Fund for Japan による「歌の炊き出し」(ライブ)を実施。
また、11月1日～6日に神宮外苑(東京)で開催されたデザインイベントTOKYO DESIGNERS WEEK2011 会場内でも、「歌の炊き出し」に参加したアーティストを中心に小林武史プロデュースによるライブを開催。
ライブの際に皆様からお寄せいただいた募金は全額 ap bank Fund for Japan を通じて復興支援に充当



Donation | 義援金・復興支援金を送る

震災直後より、オフィシャルサイトにて募金の呼びかけを行いました。震災後、状況は刻一刻と変化するなかで少しでも早く、かつ長期的に、被災地の皆様の力になれるお金の使い途を考えた結果、「義援金」と「復興支援金」という2つの募金窓口を設けることにしました。

皆様の気持ちをより具体的に反映した形で被災地に届けたいと考えています。

● **義援金 被災された方々に「直接」お金を届けたい**
義援金総額: **237,991,841** 円 (2011年12月15日で募集終了)

義援金寄託報告 (第1回+第2回)

2011年12月15日までにお寄せいただいた義援金総額を5月20日と12月26日の2回に分けて右記のとおり各被災地地方公共団体へ寄託

岩手県	59,497,960 円
宮城県	71,397,553 円
福島県	59,497,960 円
青森県	4,759,837 円
茨城県	23,799,184 円
栃木県	4,759,837 円
千葉県	14,279,510 円

計 237,991,841 円

● **復興支援金 災害復興に伴う様々な活動のための資金を提供したい**

復興支援金総額: **9,004,995** 円 (2012年4月9日時点)

ap bank による復興支援活動、または ap bank と想いを共有するボランティア団体・NPO 等、復興支援を行う団体の活動資金とさせていただきます。寄託先および寄託金額は、ap bank が調査・研究した上で決定し、その内容については随時オフィシャルサイトにてご報告いたします。

Volunteer | ボランティアに参加する

震災直後の、復興に向け少しでも多くの方の力が必要なのに受け入れる基盤がまだ形成されていないといった被災地の状況を受け、ap bank Fund for Japan では、より多くの方々がスムーズにボランティア活動に参加出来るよう現地での活動拠点作りをし、国際協力 NGO ピースボートと相互協力のもと、短期ボランティアプログラムを実施。一般の方から広くボランティアを募集し、派遣してきました。

4月8日(金)の第1陣出発を皮切りに、

宮城県石巻市にて広範囲に津波の被害を受けた市街地の泥の除去作業を中心に活動してきました。

震災から半年が経ち、マンパワーが必要とされる作業も終息に向かうなか、現地支援関係団体との協議を経て、9月9日(金)出発の第20陣の派遣を持って短期ボランティアの募集・派遣を終了いたしました。ご参加いただいた延べおよそ 1400 名のボランティアの皆さんをはじめ、ご関心をお寄せいただいた方々に厚く御礼申し上げます。



Food | 食べてつながる

● **Food Relation Network 東日本**

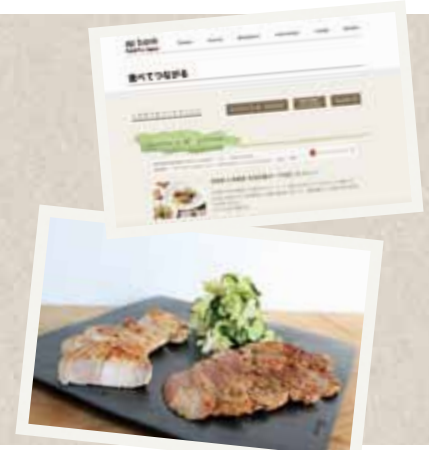
東日本大震災が引き起こしたのは、津波による塩害などの農地の損傷だけではなく、原子力発電所事故に端を発した「食」の安全性や「生産者」の経済的損失も大きな問題となっています。

Food Relation Network (※) は、東

日本の生産者と消費者を繋ぐ試み「Food Relation Network 東日本」をスタートしました。震災前に収穫されたお米など、食の宝庫である東日本の「美味しい」食材を使ったメニューを都内で kurkku が展開するレストランやカフェで提供したり、kurkku オンラインショップで販売したりしました。

※ **Food Relation Network とは**
ap bank が「食」と「農」をテーマに立ち上げた、「日本各地の生産者」と「都市で生活する人々」をつなぐプロジェクト。
未来の日本の農業が、そして生産地と生産者が、もっと元気であるように、「いいものをつくること」「おいしさをつなげること」「想いをつたえること」を目指しています。
2011 年秋からは、食のイベント「Food Relation Network」を開催。今後も、いろいろな試みで「食」と「農」の新しい関係を作っていきます。

<http://frfes.apbank.jp/>



Books | 本を贈る

● **贈る図書館プロジェクト**

岩手県で被災された My Little Lover akko の友人の一言がきっかけとなり、akko の呼びかけでスタートした、被災された方々へ本を届けるプロジェクト。

絵本や大人が読んでも楽しめるような児童書を中心に、家で眠っている本を募集。4月20日までに総数 21,506 冊の本が寄せられ、岩手県野田村 (ap bank 第1期融資先) をはじめとする被災地に届けました。ご協力いただきました方々や企業さまに厚く御礼申し上げます。



Others | その他

● **アーティストによるメッセージ**

過去に ap bank fes に出演いただいた方を中心とした賛同アーティストの皆さんから寄せられた、被災地の方々へ向けたメッセージをオフィシャルサイト上で公開しています。

● **出張足湯**

渋温泉 (ap bank 第6期融資先) や鳴子温泉のご協力のもと、岩手県大槌町に足湯をお届けし、温泉でリラックスした時を過ごしていただきました。

● **スタッフによる炊き出し**

震災が発生してすぐに、ap bank、kurkku のスタッフ、そして山形アル・ケッチャーノ奥田政行シェフらの協力により編成された「炊き出し隊」を現地に派遣。災害対策本部や社会福祉協議会ボランティアセンターと連携して被災された方々にあたたかいご飯を提供しました。



実施期間: 2011年3月19日～6月30日
宮城県と岩手県にて合計 38 ヶ所、およそ 1 万 5000 食を提供

ap bank fes'11
Fund for Japan
環境報告書
Environmental Report
もくじ

P.01
はじめに

ap bank Fund for Japan

P.03
復興支援

ワークショップ
丘の上の映画館
エリア紹介
地元掛川市とのつながり
eco-reso+ (plus) 前夜祭

P.17
楽しんで学ぶこと

エネルギー

P.20
イベントの仕組み

音楽のちから

P.07
音を楽しむこと

eco-reso talk
eco-reso booth
東を支えるアイコン

P.09
知ること／参加すること

マイ箸・マイカトラリー、マイ食器
リユース食器
ごみの分別とそのゆくえ
ごみのゆくえレポート

P.21
ごみのこと

収支報告

P.25
お金のこと

オーガニックフードの取り組み

P.12
食べること

オフィシャルグッズ
雑貨

P.15
買うこと

公演実施概要
ap bankとは
ap bank fesとは

P.26
イベントのこと／ap bankのこと

P.29
おわりに

音を楽しむこと 音楽のちから

ap bankの「ap」に込められた意味のひとつ——「Artists' Power」。音楽は時として、ものや言葉の壁を越えて伝える、つながる、広がっていく力を持ちます。

アーティストだからこそできること。小林武史と櫻井和寿を中心としたBank Bandとゲストアーティストとのコラボレーションで生まれる唯一無二のハーモニー

やバンドアーティストの力強い音など、ap bank fesの会場で奏でられる音楽は、理屈ではなくダイレクトに心に響きます。

メインステージ

ap bankが震災直後に迅速な支援活動に踏み切れた背景には、これまでのap bank fesやCD、DVDなどのリリース物などの収益によってまかなわれるap bankの活動資金があったことが大きな要因となってい

ます。それは、フェスに参加してくださった多くの来場者の皆様、そしてap bank fesに出演してくださったアーティストの方々の力に他なりません。ap bankの趣旨に賛同しご協力くださったアーティストの方々

と今一度ひとつになり、ap bank fes '11 Fund for Japanを作っていきたいという想いから、過去にap bank fesにご出演いただいた方々を中心に改めて集まっていたき、音楽を届けることにしました。



ap bank fes '11 Fund for Japan 出演アーティスト (出演順 / 敬称略)

7月16日(土)	7月17日(日)	7月18日(月・祝)
Bank Band with Great Artists		
miwa MINMI 秦 基博 一青 窈 スガ シカオ 真心ブラザーズ	ナオト・インティライミ Salyu スキマスイッチ BONNIE PINK トータス松本 ASKA	My Little Lover RHYMESTER Chara Cocco KAN 加藤登紀子 小田和正
Band Act		
レミオロメン Mr.Children	JUN SKY WALKER(S) Mr.Children	the pillows Mr.Children

koti market live

芝生が広がる雑貨エリアkori marketでは、エリアの穏やかな雰囲気そのままに、アコースティックライブを楽しんでいただけるステージkoti market liveを展開しています。

各日の夜には、エリアをキャンドルが彩るなか、3月11日に発生した東日本大震災からの復興に向けてさまざまな支援活動を行っているアーティストやプロジェクトとのコラボレーションライブ「Live of Light」をお届けしました。



ap bank fes '11 Fund for Japan / koti market live 出演アーティスト (出演順 / 敬称略)

7月15日(金) eco-reso+ (plus) 前夜祭	7月16日(土)	7月17日(日)	7月18日(月・祝)
萩 蘭 (Hagi-Ran) 倉本 美津留 登坂亮太 門田匡陽 (Good Dog Happy Men) with タクヤ イシイモモコ	suzumoku 大知正紘	球舞 -CUBE- Rake	だいじゅ ナオト・インティライミ
Live of Light			
東田トモヒロ	OVERGROUND ACOUSTIC UNDERGROUND	佐藤タイジ	The NO PROBLEM's

パブリックビューイング@仙台

ap bank fes '11 Fund for Japanの会場であるつま恋と、宮城県仙台市を繋ぐパブリックビューイングを開催しました。つま恋に出演するアーティストと被災地の皆さんとが音楽の力で繋がれたら、音楽

を楽しんでいただき少しでも元気になっていただけたら、との想いを込めて、3日間の全ライブステージを生中継しました。また、生の音楽を届けたいというアーティストの想いから、パブリックビューイン

グ会場限定のアコースティックミニライブも開催。現地スタッフをはじめ、たくさんの方々にご協力いただき、3日間のパブリックビューイングにおよそ4000人の方にご来場いただきました。



ap bank fes '11 Fund for Japan パブリックビューイング@仙台

日程	2011年7月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)		
会場	エスアールジータカミヤ スポーツパークあすと長町 89ERSドーム		
時間	開場 11:00 / 開演 12:00 / 終演 19:00		
入場料	無料		
アコースティックミニライブ 出演アーティスト (敬称略)	7月16日(土) Salyu	7月17日(日) 一青 窈 東田トモヒロ	7月18日(月・祝) 藤巻亮太 from レミオロメン 大知正紘



知ること／参加すること①

eco-reso talk エコレゾトーク

ap bank fesが初回から実施している、このイベントの大きな特徴の1つでもあるトークセッション。毎回、ap bankがその時々に興味のあることや考えていることな

どをテーマに展開しています。

東日本大震災後の開催となったap bank fes' 11 Fund for Japanでのeco-reso talk メインテーマは「復興支援」「エネルギー」、

そして「食」。前夜祭を含む4日間、有識者や私たちのプロジェクトに賛同していたいる方々などをお招きし、熱い議論を交わしました。



7/15(金) eco-reso+(plus) FOOD RELATIONでつながる食の未来



GUEST: 三國清三 (「オテル・ドゥ・ミクニ」オーナーシェフ)、笹島保弘 (「イル・ギョットーネ」オーナーシェフ)、奥田政行 (「アル・ケッチャーノ」オーナーシェフ)、山下一穂 (山下農園／土佐自然塾)、小石原はるか (フードライター) **MC:** 小林武史 (敬称略)

小林武史が自ら司会として立ち、「食」にまつわるさまざまなプロフェッショナルをお呼びして、食の未来について語りました。まず、それぞれのシェフの復興支援への関わり方とその想いからトークはスタートし

ます。

奥田シェフは震災直後にスタッフの家族を捜しに雄勝町に向かい、実際に自分の目で被災地を見たことがきっかけとなり、ap bank Fund for Japanとともに山形から被災地へ温かいご飯の炊き出しを実施しました。食べ物は人を笑わせたり気持ちをやらわげる効果があるので、それを被災地に届けたかったと、その想いを教えてくれます。

また、三國シェフ、笹島シェフ、奥田シェフは「ソウルオブ東北」という、全国の料理人や食に携わる人、食環境に興味のある人が東北の食を守るために立ち上げたプロジェクトに関わっており、食べ物を扱う人間としてなんとかしたいという強い想いで、キッチンカーで東北を巡り料理を提供するなどの活動を行ってきました。たくさんの人に食べてもらいたい、喜ぶ顔を見るのが嬉しいというホスピタリティの心が、「食」を生業とする人間の共通の想いであり、そ

うした利他的な意識は日本を変えていく力になるのではないか、と言います。

おいしいものを美味しく食べたいという想いを追求した結果、辿りついたのが農業だったと語る山下さんは、人間ではなく、微生物や多様な生命といった畑の中の自然の力が、新たな生命を生んでいく。食べ物が自然エネルギーの最も小さなカタチなのだ、と言います。

ap bank と kurkku のプロジェクト「Food Relation Network」も、食べ物を「作る人」とそれをおいしく「料理する人」そして「食べる人」とがつながり、食べ物を通して命の循環を実感すること、おいしさを通じてサステナブルな未来を選択していくことができれば、という想いを込めています。小林の「命の源である食を、さまざまな角度から捉えていきたい」という想いに、シェフそれぞれがアイデアを巡らして終了しました。

7/16(土) 被災地復興に向けて ～みんなが生きる みんなで生きる～

GUEST: 村井嘉浩 (宮城県知事)、辻元清美 (衆議院議員)、エリイ [Chim ↑ pom] (美術家)、小林武史 **MC:** 長井延裕 (ap bank) (敬称略)

災害ボランティア活動担当の内閣総理大臣補佐官の辻元清美議員と、ap bank Fund for Japanの活動基盤となった石巻市のある宮城県の村井嘉浩知事、政治という場で復興支援を行ってきたお二人に駆けつけていただき、被災地復興にむけての生の声を届けていただきました。

東日本大震災では、阪神淡路大震災の教訓を活かしてよりスムーズにより深いボランティア活動ができたと言われますが、そこには、自己完結型であることへの認識と、受け入れ基盤をいち早く整えたボランティア団体の存在が大きかったと言えます。また、新たな試みとして四者調整連絡会をス

タートし、ボランティア、県、国、自衛隊がお互いに関わり合い補い合える環境づくりができたことも、より効果的な復興支援につながったのだそうです。

震災直後は政府と県庁との連絡が全く取れず、情報もなく、自衛隊も自ら道を切り開きながら現地に向かうような状態で、かなり難しい状況だったことをふまえ、一ヶ所集中している国の権限と財源を地方に分けていくこと、そして自分の住んでいる地域について知ったり、自治ネットワークを作ったりしていくことがとても大切だ、と辻元議員は言います。

それはエネルギーも同様で、小さくてもそれぞれの地域でエネルギーを作っていくこともとても大切。宮城県は震災直後に全戸停電していましたが、自家発電装置や太陽光で発電している家には灯りが灯ってい

たことがとても印象的だった、と村井知事は言います。自分たちの町を自分たちが作っているということに面白みを感じて変えていく意志が、そこには必要なのです。

復興に向けては、国や県、自治体だけではなく、私たちにも出来ることがたくさんあります。

長い時間が必要になりますがどうか関心を持ち続けて欲しい、という小林からの呼びかけで締めくくりました。



7/17(日) エネルギーシフトの時代へ Part.1

GUEST: 飯田哲也 (エネルギー革命家)、枝廣淳子 (環境ジャーナリスト)、宮台真司 (社会学者) **MC:** 小林武史 (敬称略)

3.11以降、守らなくてはいけないこと、変わらなくてはいけないこと、感じなければいけないこと、、さまざまなことが浮上ってきているいま、私たちがこの現状や「エネルギー」というものに対し、何をどう考えるのか？そこからトークが始まります。私たちは、これまでの国の政策に対して「お任せしたうえで文句を言う」――、そ



れは江戸時代からの風習なのだそうです。小林は、今の体制の批判ばかりではなく自分たちで考えていく、変えていく手だてが必要。「食」と「エネルギー」のつながりが見える社会創り、自分たちの生活に必要な部分を取り入れて、関心を持っていくことが大事なのではないかと問いかけます。

宮台さんは、お任せして文句を言うのはつまらない。問題を引き受けて考える人生は、楽しいし面白い。例えば、クーラーを止めて朝顔やゴーヤのグリーンカーテンで節電の工夫をしてみたら意外と楽しいと感じた人は多いはず。何が幸せなのかを考えることが大切、と言います。

枝廣さんは、3.11以降、これまでお任せしてきたことに気づいた人も多くいたはず。コンセントをつければ電気がつくことが当たり前で、そのコンセントの先がどこに繋がっているのかを意識している人はほとんどいなかったのでは？考えなくてもいい

状況に置かれていたが、自分で考えなきゃ、という状況になった。大変かもしれないけど、任せて文句をいうよりも引き受けて考えるほうが充実した楽しい人生になるはずで、と。

自然エネルギーの不安定さに対する疑問には、飯田さんが、ドイツやカナダでの成功事例やその持続可能性から、大丈夫だと答えます。原子力や化石燃料は、入口（＝資源）と出口（＝環境汚染、もしくは事故）において必ず破局を迎える。再生可能なエネルギー（＝自然エネルギー）が起こす環境破壊は副次的問題であり解決可能な問題。本質的な問題との見極めが大事だ、と説きます。

最後に、ここにいるみなさんは、「ap bank fes' 11 Fund for Japan」を選んでくれてる。もう一步。声を出してみるとか、関心を持ち続けることが大切、との小林からのメッセージでこの回を終えました。

7/18(月・祝) エネルギーシフトの時代へ Part.2

GUEST: 田中優 (環境活動家)、松田美由紀 (女優/写真家)、小林武史 **MC:** ケン・マスイ (敬称略)

東日本大震災によって引き起こされた福島第一原発事故をきっかけに、Twitter上に飛び交うさまざまな話題に触れ、原発について疑問が生じていったという松田美由紀さん。田中優さんの講演会に行き、原発問題を知るにつれ、声をあげて疑問を投げかけることが、自分が役に立てることだと考えるようになったそうです。

小林は「自分も松田さんも、みんなと同じ。疑問に思ったりおかしいと感じたことは声を挙げていって欲しい。彼女はそのお手本。」として、今回松田さんにご登壇いただきました。

福島第一原発事故について、田中優さんは、放射能の内部被ばくのリスクを少しで

も減らすためにとにかく「食べるもの」に気を遣って欲しい、と強く訴えます。さらに、過去の原因事故から学んだことを活かしていく必要性を説きます。そして、電気料金の仕組みや送電線分離の問題など、日本が抱えるエネルギーの問題点について、田中優さんが分かりやすく解説。そこから、実際にわたしたちが「再生可能エネルギー」にシフトしていくにあっての話題に展開していきます。実際には、風力や波力、太陽光といった自然エネルギーの不安定さへの懸念と、わたしたち自身が「変化」そのものを恐れる傾向があるのでは？との松田さんからの問いに、田中優さんが提案するのは、世界的に進んでいる「スマートグリッド」という仕組み。日本の高い技術力をもってこの仕組みを導入すれば、日本は競争力を持つことができる。まず、そういった情報がき



ちんともたらされ、みんなが知ること。そして、そこから何を自分が選んでいくか、それぞれが考えて決めることができるようになることがとても大切だと言います。

すべては繋がっていて循環している。だからこそ有限や危険なものではなく再生可能エネルギーにシフトしていくのは必至なのではないか、という小林の想いに、両者が思う「大事なこと」として、松田さんは、とにかく国民一人ひとりが声をあげる。田中優さんは、前向きに生きる。前向きに解決していくこと。を来場者に伝え、この回を締めくくりました。



知ること／参加すること②

eco-reso booth エコレゾブース

オーガニックフードエリアpihaのeco-reso boothでは、「復興支援」をテーマにしたブースを展開しました。

ap bank Fund for Japanが行ってきた復興支援の取り組みの報告、そしてap bank Fund for Japanの活動を通して知り合った復興支援団体やプロジェクトの紹介の場として、展示や自由にコミュニケーションが取れるスペースを設けました。また、ミニトークでは、ap bank Fund for Japanが行う復興支援の取り組みはもちろん、そうした方々から復興の現場の生の声を届けていただきました。

写真、映像、トーク、コミュニケーションといった様々な方法で、復興支援を伝える場となり、多くの来場者がこのブースに

立ち寄り、写真ひとつひとつを時間をかけて丁寧に見たり、ミニトークを真剣に聞く姿が見られ、このテーマに対する関心の高さが伺えました。



2011.7.15 (金) eco-reso+ (plus)	
ミニトーク #1	テーマ 「農」からできる復興支援 ゲスト 西辻一真 (株式会社マイファーム 代表取締役)、田村征士 (東邦レオ株式会社)
ミニトーク #2	テーマ ap bank Fund for Japan 災害復興支援ボランティア活動 ゲスト 中村真菜美 (ap bank Fund for Japan スタッフ)
2011.7.16 (土)	
ミニトーク #1	テーマ 岩手県における災害復興支援 ゲスト 多田一彦 (遠野まごころネット 副代表)
ミニトーク #2	テーマ 宮城県石巻市における災害復興支援 ゲスト 山本隆 (ピースポート共同代表 東日本大震災復興支援プロジェクトリーダー) 中村真菜美 (ap bank Fund for Japan スタッフ)
2011.7.17 (日)	
ミニトーク #1	テーマ 「コットン」を通した復興支援 ゲスト 近藤健一 (大正紡績株式会社)、赤坂芳則 (有限会社イーストファームみやぎ) 江良慶介 (株式会社クルック)
ミニトーク #2	テーマ 優さんになんでも聞いてみよう！ ゲスト 田中優 (環境活動家)
ミニトーク #3	テーマ 「ありがとう」からはじめる、ふるさと再生 ゲスト 須藤栄治 (つながろう！南相馬)、宮森佑治 (つながろう！南相馬)
2011.7.18 (月・祝)	
ミニトーク #1	テーマ 福島県南相馬市からのメッセージ ゲスト 高橋美加子 (つながろう！南相馬)
ミニトーク #2	テーマ 共生復興住宅 手のひらに太陽の家プロジェクト ゲスト 佐々木豊志 (日本の森バイオマスネットワーク 代表) 大場隆博 (日本の森バイオマスネットワーク 副理事長)
ミニトーク #3	テーマ ap bank Fund for Japan「贈る図書館」プロジェクト ゲスト My Little Lover akko、武又正貴 (NPO 法人 野田塩ベコの道 理事)
活動紹介	エコランド被災地支援プロジェクト報告：阿賀清恵 (株式会社ウインローダー)
	大館復興刺し子プロジェクト：小杉綾、五十嵐順子
	MC：Comugi

(敬称略)



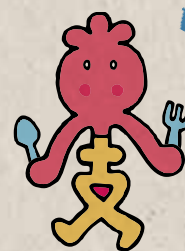
知ること／参加すること③

東を支えるアイコン

会場内で来場者ができる復興支援活動には、①風評被害を受けている東日本食材を使った料理を食べ、被災地の経済活性化に少しでも貢献すること／②復興支援活動をしている店舗の食べ物や雑貨を購入し、支援している人や団体を応援すること――な

どがあります。

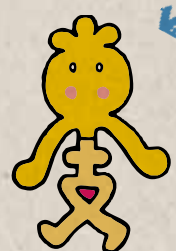
こうした間接的支援につながる店舗を識別し、選ぶことができるよう、店舗の店先に2人の東日本支援アイコン「ヒガシ たべササエさん」「ヒガシ ササエさん」をつけました。



ヒガシ たべササエさん

東日本の食材(※)をメニューに取り入れている飲食店舗と、各メニューに付きます(飲食出店のみ対象)。店頭には使用した東日本食材の産地を明記し、東日本の食材を控えたい方(例えば小さなお子様連れの来場者など)にとっては、食べ物を選ぶ指針とすることができるようになりました。

※東日本とは、ここでは被災の基大であった東北6県、茨城県・栃木県・千葉県を指します。ただし、全く震災の被害を被っていない産地に関してはこの限りではありません。



ヒガシ ササエさん

炊き出しや募金・寄付、ボランティア活動など、食材採用以外の方法で支援を行っている店舗や団体に付きます(雑貨出店、ワークショップ出展も対象)。



食ること

オーガニックフードの取り組み

ap bank fesのフードエリアでは、オーガニックにこだわったメニューが楽しめます。ひとくちに「オーガニック」といっても、ap bank fesでは、オーガニック認証を得た食材を必ずしも使用してなくても、生き物や環境に配慮して食材やエネルギーを選ぶことが重要だと考え、そういった有機的な努力・工夫によって作られたメニュー

を広く「オーガニックフード」と呼んでいます。

今回出店した50の飲食店も、可能な限り農業を減らして栽培した農産物や、産地から消費地までの輸送エネルギーを抑えた国産の食材を使ったりするなど、生産・流通・調理の過程において、安心・安全のためにさまざまな努力や工夫を凝らして

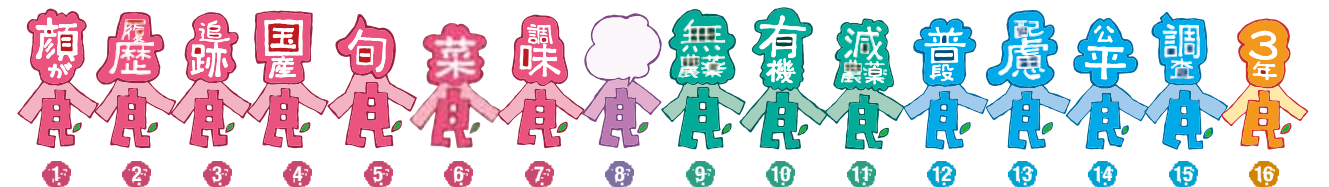
います。

ap bank fesのような真夏の野外イベントでこれほどオーガニックを意識した飲食店がそろうイベントは他にありません。「食べる」という行為を通して、身体にやさしいメニューを提供する飲食店の努力や、それを支える生産者の存在の大きさを感じ取っていただければと思います。

フードアイコン 食良くん

オーガニックフードエリアに出店した飲食店は、日頃からもしくはap bank fesにおいて、身体にやさしく環境にも配慮したメニューを提供するために、生産や流通、または調理の過程において、さまざまな取り組みを行っています。そんな飲食店の努力や工夫を来場者のみなさんに知っていただくためのツールとして'09に生まれたの

が、16人の「食良くん」です。食良くんは、各飲食店の取り組みを事務局が設ける独自の基準をもとに審査し、クリアしたもののみ店頭や最後尾看板に掲示することができます。お店がどんな取り組みを行っているのか、どんなところが身体にやさしいのか、食良くんを見ればお店のこだわりがわかります。



1 顔が 生産者がはっきりわかる食材を使用しています(※)。	2 履歴 主に農産物について、「栽培履歴」がきちんと記録された食材をしています。	3 追跡 使われている加工品の製造過程も全て後から調べることができます。	4 国産 日本国内産の食材を使用しています(※)。
5 旬 お店や産地の旬の食材を使用しています。	6 菜 野菜中心のメニューです。	7 調味 国産の原料、天然の原料で作られた調味料を使用しています。	8 オリジナル それぞれのお店の人が自らお店の特徴を書き込んだ、オリジナルのアイコンです。
9 無農業 栽培期間中農業化学肥料不使用。主に農産物について、生産の過程で一切の農業・化学肥料を使用せずに栽培された食材を使用しています(※)。	10 有機 自然環境に調和した方法で農畜産物を栽培する有機農業法で作られた材料を使用しています(※)。	11 減農業 栽培期間中農業当地比5割減、化学肥料5割減。当該地域の慣行栽培の半分以上の農業・化学肥料で栽培された農産物を使用しています(※)。	12 普段 ap bank fes 以外でも、普段からオーガニックフードをはじめ、安心・安全にこだわった食事を提供しているお店です。
13 配慮 ap bank fes 以外でも、普段から環境に配慮した経営・運営に積極的に取り組んでいるお店です。	14 公平 フェアトレード品を使用したメニューを提供しているお店です。	15 調査 定期的に「残留農薬分析」という厳しいチェックを実施しているお店です。	16 〇年 このお店がオーガニックフードや、安心・安全な食事の提供、環境問題に取り組んできた年数を表示しています。

※一部調味料の原料は含まれません。

column

最後尾看板

オーガニックフードエリアでは、飲食店の購買列最後尾に並んだ来場者が最後尾看板を持ち、後ろに並んだ人に次々に渡していくスタイルをとっています。混み合っている最後尾を見つけやすく、看板に掲示された各店舗のおすすめメニューや取り組みは、お店選びやメニュー選びにも役買ってくれます。来場者同士が最後尾看板をリレーしていくこのスタイルは、待っている間も来場者同士の交流が生まれる場にもなりました。



飲食店一覧(全50店舗)

オーガニックフードエリアでは、ap bank fesが大切にする「身体にも環境にもやさしいオーガニックフードを提供する」という趣旨に賛同していただいた50店舗が出店。有機栽培の野菜やこだわりの食材を使ったメニューは、来場者にも大変好評でした。

凡例 ※掲載しているメニューは一部です。

●店舗名
[ジャンル] おすすめメニュー

piha

- タコテリオ
[タコライス] 有機玄米アボカドタコライス
- ナチュラルフード 夢は正夢
[ナチュラル和食] 宮崎名物アジの冷汁茶漬け
- オーガニックタイフード PUEN 茅ヶ崎
[タイ料理] パッタイやきそば
- 旅する移動オーガニックカフェ Cafe Pitwu
[カフェ] よしお君のバナナシェイク
- さんさんファーム
[生産農家] フランクフルト
- ごはん屋米米
[和食創作] 旬菜プレート
- 地球を救うカレー! Spice Café Bija
[カレー] 大地の野菜カレー
※ ap bank 融資先
- café Slow
[カフェ] 高橋さんの完熟トマトのチリビーンズ丼
※ ap bank 融資先
- 有機茶の善光園
[お茶／生産農家] 氷茶漬け
- Café-Rappa
[ビーガン料理] ファラフェルピタサンド
- CANTIK Organic Mango Sweets
[スイーツ] オーガニックマンゴーのカキ氷

kotí market

- 延楽梅花堂
[梅料理／ドリンク] 梅ジュース
- アゲアゲ↑↑オーシャンブリッジ
[揚げ物・フライ] ポテトチップス ～サクサクフライ盛合せ
- 菜膳 deli
[肌美膳(美系菜膳料理)] うるおい美肌鶏飯(海南ライス) ～2色のソースで～

kotí

- Cafe Obscura
[カフェ] 生搾りシャリシャリ レモネード
- 農業生産法人(南)えこふあーむ
[生産農家] 放牧豚ポイルソーセージ
※ ap bank 融資先
- さんファーム
[生産農家] 黒米入りライスバーガー
※ ap bank 融資先
- マハッタ
[インド料理] 野菜カレーセット
- 白猫堂
[和食どんぶり] 塩豚そぼろ丼
- 博多白天
[ラーメン] 純国産博多ラーメン
- イル ギオットーネ
[イタリアン] 採れたて野菜いっぱいのパスタ農園風
- シェ カンタベリー
[イタリアン] イタリアンクッパ
- Vegekitchen
[オーガニックデリ] 横浜ボークのジャージャー飯
- アツい農家のひんやり元気野菜100%
[農業ベンチャー] フレッシュ野菜のサラダパスタ
- POLE ☆ POLE
[タコス] オリジナル・タコス
- 石窯パン専門店 緑と風のダーシェンカ
[自然酵母の石窯パン] プチダーシェンカ
- ボラン広場東京
[オーガニック野菜] 冷やし有機トマト
- キミドリ
[多国籍料理] キミドリ風タコライス

Puu

- らでいっしゅぼーや
[野菜宅配] 復興応援夏野菜セット
- みるく工房四季
[アイスクリーム] 自然放牧牛乳 四季のジェラート
- ピザバスいしがまや
[石窯・薪焼きピッツァ] マルゲリータ
- CINEMA CARAVAN
[カフェ] 自家製シロップかき氷

- 麦とろ人
[麦とろ専門店] 国産うなとろ
- PRIMAL
[ハワイアン] ハワイアンロコモコ
- るみばあちゃんのさぬきうどん
[さぬきうどん] 梅しそおろしぶっかけうどん
- おむすび茶屋 メダカのがっこう
[おむすびカフェ] 海の幸の冷やしだし茶漬け
- 上々
[ドンブリ料理] 本格 牛スジ丼
- クィンシーバ
[エチオピア料理] エチオピアプレート
- オーガニックチキンケバブ NAP JAPAN
[北アフリカ料理] こだわりチキンと元気野菜のケバブ サンドイッチ
- 蔵王温泉 オトチャヤ
[山形郷土料理] 冷たいにくそば
- 菜食健美
[new 精進カフェ] New 精進キーマーカレー
- ハム屋の tacos ゴーバル
[タコス] Wチーズペーコンタコス
- わいわいファーマーズ
[生産農家] おにぎり4種(桜花、黒米、新ごぼう、大根葉、新生姜)
- 掛川屋
[地元食材の店] 掛川豚丼＋深蒸し冷茶
- 庄一樓
[和カフェ] お茶ワッサン
- 茶葉きみくら
[茶／ドリンク] 水出し煎茶(蜂蜜ロックティー)

kurkku village

- mother kurkku
[カフェ／ダイニング・バー] 東北ブタの自家製スムークごはん
- kurkku 3
[蕎麦／カフェレストラン] 山形だしの冷やしスタミナ蕎麦丸ごとトマトのせ
- クルックバーガー(仮)
[ハンバーガー] えこふあーむ放牧肝付豚のハンバーガー
- kurkku kitchen
[ナチュラルキューズ] 肝付豚ハムのパニーニ

think food & farm

「食」について考えてみようという名のブースでは、ap bank fesの会場内で行っている食に関する取り組みをできるだけ分かりやすく、より多くの来場者に知っていただけるような展示を行いました。お馴染みとなったフードアイコン「食良くん」や各店舗のお勧めメニュー紹介のほか、今年新たに登場した食の東日本支援アイコン「ヒガ



シ たべ ササエさん」とその詳細、また飲食店がメニューを申請する際に提出した食材の産地などが明記された書類が閲覧できるコーナーもあり、フードを楽しむ来場者が食についてもっと知ることが出来ました。

また、farmの側面では、ap bankの農業プロジェクト「耕す 木更津農場」の紹介として、農場のジオラマや、開墾から農作物

を作り出荷するに至る今日までの年表、収穫物の展示などを行いました。また、農業に必要となるエネルギーもできるだけ持続可能なものに、との考えから、前夜祭には実際に耕すで使っているトラクターをバイオディーゼル車に公開改造し、つま恋で出た廃食油をろ過してバイオディーゼル燃料にするワークショップを行いました。



vege-reso project

イベントの数ヶ月前から、みんなで野菜を育てる「実感」を共有し、ap bank fesを楽しむプロジェクトとしてスタートした「vege-reso project」も、今回で3回目を迎えました。ap bankの農場「耕す」が開墾から農業を始めたように、今回のvege-reso projectは「土づくり」をテーマに設定。一般の方、アーティストやスタッフなど、参加者それぞれが自宅やオフィスで、前年のvege-reso project以降使わずにいたため固くなってしまった土を再生したり、身近な

ものから有機肥料や自然農薬を作ることにもチャレンジしました。野菜の栽培記録は、一部の参加者によるブログ形式の栽培日記やTwitterを使って展開し、野菜を育てる大変さや収穫物を味わう喜びをたくさんの方と共有することができました。vege-reso projectを通じて、生命の強さや自然の恵みのありがたさに触れた参加者も多く、「土づくり」の大切さを実感していただくことにつながりました。

<http://fes.apbank.jp/vegereso/>



column 耕す

「食」と「農」をテーマに、日本各地の生産者と都市で生活する人々をつなぐプロジェクト「Food Relation Network」の自主生産拠点として、2010年、ap bankの「明日(あす)ラボ」を通じた出資によって生まれた「株式会社 耕す」。安心で安全な食べ物を「生産する」という立場から、命のつながりを感じることができ循環型農業に取り組んでいます。

耕すは、約9万坪(30ha)の使われていなかった広大な土地を開墾し、農地として再生するところからスタートしました。今では年間およそ30種類の野菜や卵を生産しており、地元木更津市の直売所やfood kurkkuで販売。またkurkkuの飲食店などで味わっていただくことが出来ます。

<http://www.tagayasu.co.jp>



買うこと① オフィシャルグッズ

ap bank fesのオフィシャルグッズは、素材にできるだけ環境負荷の少ないもの、持続可能な世の中になるための後押しになるようなものを選んでいきます。また、イベント会場で身につけて気分を盛り上げるの

は勿論、家に持ち帰ってからも使用することで、普段から環境負荷の少ない暮らしに近づくことができるアイテムをラインナップ。デザインにトップクリエイターの方々のメッセージが込められた、特別なオ

リジナルグッズです。

オフィシャルグッズの収益も、ap bank fes '11 Fund for Japanの収益となり、すべて災害復興支援に充てられます。



オーガニックな世の中を広げる | プレオーガニックコットン

プレオーガニックコットンとは、オーガニックの認定を受けるまでに収穫された、無農薬で育てられたコットンです。無農薬農法を開始してから3年の移行期間は農薬を使わないため収穫量が減りながらも、オ

ーガニックコットンとして認められないため買取り値も上らず、農家さんの収入が減ってしまいます。

私たちがプレオーガニックコットンを選び、その移行期間をサポートすることで、

オーガニック農法を望む農家さんを後押しし、ひいてはオーガニックな世の中への移行を支えることができます。オフィシャルTシャツ及びタオルは、プレオーガニックコットンを使用しています。



麦わら帽子Tシャツ2011
Design: 箭内道彦



Back Print



バタフライハートTシャツ
Design: 森本千絵



癒しTシャツ
Design: アリシア・ベイ＝ローレル



カキ氷Tシャツ
Design: 坂井達志



しんりんTシャツ
Design: きたざわけんじ



リボンTシャツ
Design: 喜多昭夫



One for All, All for One Tシャツ
Design: 古谷萌



オフィシャルマフラータオル
Design: 箭内道彦



オフィシャルバスタオル
Design: アリシア・ベイ＝ローレル

注目のエコプラント | 竹からできた繊維

竹は農薬や肥料が不要なうえ短期間で成長するため、環境負荷の少ない素材として注目を集めています。日本で古くから生活道具に加工するため多く植えられてきた竹ですが、需要が減り放置された竹が無秩序に繁殖し、生態系を破壊する原因にもなっています。竹を伐採して繊維として再利用する試みは、竹害を抑える取り組みでもあります。オフィシャルキャップの一部とオフィシャルストローハットのリボンに、竹からできた繊維を使用しています。



オフィシャル ストローハット
Design: 古谷萌



オフィシャルキャップ
Design: 古谷萌

ペットボトルから生まれた | リサイクルポリエステル繊維

リサイクルポリエステル繊維とは、使用済みのペットボトルやポリエステル繊維製品などを、化学的手法で分子レベルまで分解し、再びポリエステルをつくり、繊維にしたものです(ケミカルリサイクルといいます)。新たに石油から作るものと比べても同品質のものが作れるため、何度でもリサイクルすることができます。オフィシャル風呂敷は、帝人ファイバー株式会社の循環型リサイクルシステム「エコサークル®」から生まれたリサイクルポリエステル繊維で作られています。また、会場で分別回収したペットボトルも、「エコサークル®」のなかでリサイクルポリエステル繊維へと生まれ変わりました。



オフィシャル風呂敷
Design: 青木むすび

※「エコサークル®」は帝人ファイバー株式会社の登録商標です。

捨てるはずのものをリサイクル リサイクルコットン

綿を糸にする紡績の行程で、短い余り綿(落ち綿)が出てしまいます。通常だと捨てられてしまうこの落ち綿を集めて再度糸状にしてつくったリサイクルコットンを、オフィシャル手ぬぐいの素材として使用しています。



オフィシャル手ぬぐい
Design: 丹下紘希

普段からできるエコ活動！ マイボトルを持ち歩こう

便利で私たちの生活にすっかり浸透したペットボトルですが、その製造や輸送には大量の石油が使われ、使用済みペットボトルの回収・リサイクルにも多大なエネルギーが必要です。使い捨てのペットボトルに頼らない生活にシフトしていくためには、ひとりの心がけが大切。お気に入りのマイボトルを持ち歩いてみませんか？



オフィシャルボトル&
ボトルホルダーセット
Design: 大日本タイポ組合

ap bank fesに についてもっと知ろう

ap bank fes' 11 Fund for Japanの趣旨に賛同した出演アーティストの想いが詰まった、撮りおろしメッセージ写真、ap bankの活動やフェスでの取り組みの紹介、「未来へのエネルギーシフト」をテーマにした枝廣淳子さんによるコラムなど、私たちの未来を考えるためのヒントが盛りだくさんの一冊です。



オフィシャルパンフレット
Design: 信藤三雄

買うこと② 雑貨

ap bank fesに出店する雑貨店には、自然由来の素材からできたものや、製造工程において環境に配慮されたものなど、人にも環境にも優しい製品が並びます。普段の買い物ではなかなか意識することはありますが、安く大量に売られている製品は、もしかしたら木を無闇にたくさん伐採して作られたり、不当に安い賃金で雇われた人の手によって作られたものかもしれません。まずは、消費する私たちが、その製品がどこでどうやって作られたものなのか、生まれた背景を知ることが大切なのではないで

しょうか。普段使うものすべてを人にも環境にもやさしい製品でまかなうことは難しいですが、素材を活かした雑貨やフェアトレード商品(＝発展途上国から適正な価格で輸入された雑貨や農作物など)を選ぶことで、持続可能な暮らしへと少しずつシフトさせていくことができます。ap bank fesでは、そうした雑貨を取り扱う出店者を応援すると共に、普段の生活からエコロジカルな雑貨を選ぶ人が増えていく機会になればと考えています。



雑貨店一覧(全30店舗)

koté market

- Slow Water cafe [フェアトレード] * ap bank 融資先 / フェアトレード麻バッグ、水筒ホルダー、クッキー、水筒、マイ箸など
- クラフトリンク南風 [フェアトレード] / フェアトレードジュートバッグ、サンダル、ぬいぐるみ、手ぬぐいなど
- GRASSROOTS [フェアトレード] / フェアトレードの衣料、アクセサリ、雑貨、石鹸、クッキーなど
- グアテマヤ [フェアトレード] / マヤ先住民女性によるフェアトレード衣料や雑貨、アクセサリなど
- スタンプねこ [クラフト] / 自然の枝から切り出したスタンプ、名前を手彫りするキーホルダーなど
- 着 factory 宮 bow [クラフト] ハンドメイドの用途別の箸、スプーン、フォーク、お皿など
- Lopeha [衣料] / カメルーン製のワンピース、ベンガラで染めた子供用ソックス

- makiras [衣料] / インド綿100%のワンピース、ネパールのハンドメイド革製品など
- SoleRebels [フェアトレード / シューズ] / 靴底に古タイヤを使用したハンドメイドのスニーカー、サンダルなど
- ubdy [クラフト] / バリ島の職人が手彫りした木製のお皿、カトラリー、アクセサリなど
- オーガニックフラワーショップわなびや [フラワーショップ] / オーガニックフラワー、ハーブ、フェアトレードのバスケットなど
- CASOLEA [オーガニックコットン] / オーガニックコットンのマフラー、ショール、タオルなど
- QUON × あおぞらボコレーション [福祉] / リネンウォーター、オーガニックコスメ、木質ペレットなど
- honobono 号 [アクセサリ] / ヘンブのプレスレットや、アングレット、ネックレス、エコ洗剤など
- ワイルドツリー [キャンドル] / ティーラントキャンドル、キャンドルホルダー、オーガ

- ニックコスメなど
- メイド・イン・アース [オーガニックコットン] * ap bank 融資先 / オーガニックコットンの布ナプキン、衣類、タオルなど
- COCOWELL [コスメ] / バージンココナッツオイルのハンドクリーム、洗顔ソープなど
- ヤムヤム / ロゴナ & フレンス [コスメ] / 自然由来成分の日焼け止め、ボディローションなど
- TAKEFU [竹繊維製品] / 竹繊維のタオルや布ナプキン、衣料品など
- ボディクレイ [コスメ] / 国産のねんどを使ったコスメや、入浴剤、ソープ、リンスなど
- わんのはな〜エコロジカルドッグライフ〜 [ペット用品] / 無農薬有機栽培ハーブの虫よけ、オーガニックなペット用品など
- YOKOHAMA IRIE MARKET [衣料] / タイの天然ゴムを使用したカラフルなビーチサンダル、古着のTシャツなど
- Botanic Green [衣料] / 若葉で染めたヘンブやコットンのTシャツ、ソックス、パンツなど

- てのひらワークス [シューズ] / 国産オーガニックレザーのサンダル、くつ、キーホルダーなど
- CHACO [アクセサリ] / お花のヒッピーバンド、ピアス、バレッタ、カチューシャなど
- Sipilica [アクセサリ] / ナチュラルテイストのハンドメイドアクセサリ、リメイク小物など
- sunnyhours [キッズ] / パッチワークで作られたキッズティビ、ハット、ベビー服など
- HandMade & Community Trade びのこ家 [アクセサリ] / 手編みのヘンブアクセサリ、小物、ワンピースなど

kurkku village

- PRE ORGANIC COTTON [衣類] / POC 参加ブランドによる販売。売上げをすべて ap bank Fund for Japan に寄付しました。
- kurkku online shop [雑貨] / kurkku がセレクトした普段はオンラインで販売中のオシャレなエコグッズ



楽しんで学ぶこと①

ワークショップ

不要になったものや自然素材でおもちゃづくり、草花の観察や疲れた身体を癒すマッサージなど、一日中楽しめるワークショップをたくさん開催しました。思い出に雑貨を作る人、時間を忘れてもの作りに没頭

する人、お揃いのものを作る親子、参加者同士のおしゃべりを楽しむ人、楽しみ方はそれぞれ。日常とは違った環境のなか、ものの作りや自然に触れる楽しさを感じた方も多いようでした。



puu

● つま恋自然かんさつ会／公益財団法人 日本自然保護協会 (NACS-J)

● 和綿の棉繰り・糸紡ぎ・機織り体験／Tokyo Cotton Village

● つま恋の竹を使った「マイ竹箸」「竹水鉄砲」「竹あかり」づくり／合同会社ちかけん

● ヘンプ(麻)を使ったアクセサリーづくり／結ぶココロ

● ハギレを使ったうちわづくり／ヤマトインターナショナル株式会社

● 不要品のバンダーを使用して、オリジナルのストラップづくり／株式会社ウインローダー (※ ap bank 融資先)

● 「草木染め」と「葉っぱプリント」のエコバックづくり／無印良品キャンプ場

● 静岡で採れる植物や野菜でオーガニックソープやベジタブルソープづくり／三共メディカルサイエンス株式会社

● ヘアでできるハンドトリートメントレッスン／THE BODY SHOP

● 古新聞を使って「こうなりたいな」というイメージや心のモヤモヤを具現化してモンスターになるワークショップ／モンスターズ

● 国産間伐材をつかったカホンやシェイカーづくり／手作りカホンプロジェクト

● オリジナルの楽器づくりと音を出して遊ぶワークショップ／おんらく市場

● つま恋の思い出を描く似顔絵と、旗をつくるワークショップ／WORLD 1

● リラクゼーション／Relacle

● リラクゼーション／NPO 法人 リアン研究所

koti market

● 掛川駅周辺をおそうじ／特定非営利活動法人 greenbird

● koti market に出店する雑貨店によるエコ雑貨作り／エコ雑貨協同組合

● エコ雑貨スペシャルコラボ石鹸／ミス・アプリコット ● シャンプー&リンス／ミス・アプリコット ● ココナッツリップクリーム／ココウェル ● 日焼け止めアロマフェイイスパウダー／ヤムヤム ● 虫除け&日焼け後スプレー／ワイルドツリー ● 竹とハーブで作る虫よけてるて坊主／ナファ ● 自分で選ぶアロマリフレッシュナー／ロゴナジャパン ● ハーブのオーデイコロン／ヤムヤム ● ねんどのバスフィズ／ボディクレイ ● ミツロウキャンドル／ワイルドツリー ● ミツロウアロマキャンドル／ワイルドツリー ● ココナッツオイルペーパーで作るランタンランプ／ヤムヤム ● 草木染め&オーガニックコットンの

手紡ぎミサンガ／メイドインアース ● オーガニックコットンの手づくり布ナプキン／メイドインアース ● 愛犬の無添加&手作り食ライフスタイル(セミナー)／わんのはな

pina

● ビール瓶のカレットを使った万華鏡づくり、ビールのラベルを使ったハガキづくり、ウイスキーの樽を使ったバードコールづくり／キリンビール株式会社

koti

● リユースカップの洗浄体験「カップジャブジャブツアー」とクイズ形式で学べる「エコアクションキャンペーン」／国際青年環境 NGO A SEED JAPAN



楽しんで学ぶこと③

エリア紹介

kids area puu | キッズエリア プー

親子で楽しめるフェスにしたい。そんな想いをカタチにしたのが、キッズエリア puu です。緑の芝生が一面に広がり、丘から心地よい風が吹き込むこのエリアでは、大人も子供も楽しめるワークショップや遊具が盛りだくさん。楽しい思い出を作ってもらえるよう、にぎやかな装飾も施しました。イベント当日は、子どもたちの楽しそうな笑い声が絶えず広がる空間になりました。



koti market | コティマーケット

賑やかな市場をイメージした koti market には、青々とした芝生の丘に雑貨店がずらりと並びます。エリアの中心に位置する koti market live のステージから流れてくる音楽を聴きながらショッピングを楽しんだりオーガニックフードを味わったり、ときにはハンモックで休んだり、太陽光パネルで動くミストシャワーで涼んだり、ゆったりとした時間を過ごすことができるエリアです (koti market live について詳しくは → P.08 へ)。



楽しんで学ぶこと②

丘の上の映画館 (×CINEMA CARAVAN)

puu と koti market の間に位置する見晴らしの丘に、夜空の映画館がオープン。移動式の野外映画館 CINEMA CARAVAN とのコラボレーションによって、映画という発信方法を新たに取り入れました。

世界各国で作られる映画には、エンターテインメントの側面だけでなく、社会に対する問題提起などメッセージが込められた作品が多数あります。そのなかから食や農、自然や持続可能な社会創りなど、ap bank fes にふさわしいと思うテーマの映画を選択し上映しました。

芝生に座って夜空の広がる開放的な空間で観る映画はきっと、いつもとは違って感じられたことでしょう。



7月15日(金) 前夜祭

● 19:30 ~ 「コミュニティの力」

(06 年 / 米 / 53min / 監督 フェイス・モーガン) エネルギ不足を発想の転換で克服したキューバの実話記録

● 20:30 ~ 「オーシャンズ」

(09 年 / 仏 / 103min / 監督 ジャック・ベラン) 100 種類以上の海洋生物の生き生きとした姿をとらえ、海の抱える問題を映し出す

CINEMA CARAVAN for Campers (※)

● 22:30 ~ 「スワロウテイル」

(96 年 / 日 / 149min / 監督 岩井俊二) 仮想の無国籍都市に生きる若者の姿を描いた作品。主演：Chara、音楽：小林武史

7月16日(土)

● 19:30 ~ 「幸せの経済学」

(10 年 / 68min / 監督 ヘレナ・ノーバーク＝ホッジ) 消費型社会を見直し、豊かさの本質と幸せの意味を今一度問いかける

● 20:30 ~ 「NEPAL YATAI TRIP」

(11 年 / 日 / 24min / 監督 志津野雷) 屋台という空間転換装置とともに様々な境界を旅するアートプロジェクトの記録。ネパール篇

※ 22:30 ~ の上映枠「CINEMA CARAVAN for Campers」は eco-reso camp に宿泊の方のみ対象。

CINEMA CARAVAN for Campers (※)

● 22:30 ~ 「セヴァンの地球のなおい方」

(10 年 / 仏 / 115min / 監督 ジャン＝ポール・ジョー) 地球サミットで伝説のスピーチを行ったセヴァンの現在と、志を共にする人々の活動記録

7月17日(日)

● 19:50 ~ 「未来の食卓」

(08 年 / 仏 / 112min / 監督 ジャン＝ポール・ジョー) 学校給食と高齢者の宅配給食をオーガニックにすることで変化していく南仏の小さな村の様子を描いたドキュメンタリー

CINEMA CARAVAN for Campers (※)

● 22:30 ~ 「180° SOUTH」

(09 年 / 米 / 90min / 監督 クリス・マロイ) patagonia と THE NORTH FACE の創業者、2 人の運命を変えた伝説の旅を追体験する若者の旅の軌跡

CINEMA CARAVAN for Campers (※)

● 24:30 ~ 「根ノ国」

(81 年 / 日 / 24min / 監督 荒井一作) 土の中に広がる「根」の美しさと驚くべき循環生物社会を描く

7月18日(月・祝)

● 20:00 ~ 「180° SOUTH」

(09 年 / 米 / 90min / 監督 クリス・マロイ) 雨天によりキャンセルとなりました。

kurkku village | クルックビレッジ

小さな森に踏み込んだようなこのエリアには、ap bank がコンセプトプロデュースし、「快適で環境にもよい未来に向けた暮らし」を実践する場として誕生した kurkku が衣・食・住の分野で展開するお店(飲食店／プレオーガニックコットンプログラム／雑貨のオンラインショップ)が集結。木陰が涼しく落ち着いた雰囲気なかで、ライブステージから聞こえてくる音楽を聴きながらご飯を食べたり休憩したりしていただきました。



eco-reso camp | エコレゾキャンプ

自然の中で一日を過ごし、いつもとは違った時間の流れを感じることができる eco-reso camp。緑の中で朝の空気を堪能しながらの朝ヨガとラジオ体操から一日が始まり、夜にはキャンプサイト限定の夜の自然観察会やスペシャルライブ、キャンプサイトバーに集って会話を楽しんだり一日を通したコンテンツが目白押しです。風や緑のにおいを感じながら過ごし、星空の下大地に抱かれて眠る贅沢な時間。自然の素晴らしさや大切さを感じ、存分に ap bank fes を楽しんでいただきました。



キャンプサイトバーでは「リターナブル瓶」を利用した、キリン ハートランドビールを提供しました。リターナブル瓶は使用後、販売店に返却すると洗浄され再び使用される為、環境負荷が低いと言われています。紙ラベルは使用されておらず、直接瓶にエンボス加工されている為、ごみも出ません。通常、安全面から音楽イベントでは瓶の使用は敬遠されていますが、昨年より参加者の皆様のご理解、ご協力によりキャンプサイトバーでのみ取り入れています。



楽しんで学ぶこと④

地元掛川市との繋がり

ap bank fesの会場つま恋が位置する静岡県掛川市。その掛川市のみなさんによるブース「掛川宿」が初登場しました。地元の方々に、他の音楽フェスとは一線を画すap bank fesの趣旨に賛同していただき、開催7年目にして実現しました。東海道の宿場として栄えた「掛川宿」をイメージして、全国各地から来場するお客さんをおもてな

しする気持ちで、掛川をもっと知っていただけのブースを目指しました。

掛川宿コンテンツ一覧

- お茶の手揉み体験
- 掛川市の環境プロジェクトの紹介
- 地元の有機農家や掛川の特産であるお茶農家、製造業者などによる飲食出店
- 静岡県立横須賀高校（掛川市）の生徒さんによる郷土芸能



地元掛川からの出店店舗と掛川市役所による、掛川の紹介ブース。



掛川茶手揉み保存会の皆さんに教えてもらいながらお茶を作る行程のひとつを昔ながらの方法で体験。



地元出店者には、有機農家や製館所、お茶農家などがあります。生産者の顔が見える安心と、輸送で発生するCO₂がないという地産地消の考え方に則しています。



eco-reso+ (plus) 前夜祭では、静岡県立横須賀高校（掛川市）の生徒に郷土芸能を披露していただきました。



楽しんで学ぶこと⑤

前夜祭 eco-reso+ (plus) エコレゾプラス

本番3日間に先がけてライブエリア以外の全てのエリアがオープンする前夜祭「eco-reso+ (plus)」も、ap bank fesの魅力のひとつです。前夜祭では、ミニライブ

やトークステージ、ワークショップ、オーガニックフード、雑貨店など、たくさんあるコンテンツをいち早く楽しむことができます。今回も地元の方など4000名近くの方が来

場、おいしいご飯を楽しみながらミニライブを見たり、時間をかけてじっくりとワークショップに参加したりと、青空の下で思いの時間を過ごしていただきました。

2011.7.15 fri



イベントの仕組み

エネルギー Think Energy

ap bank fes'11 Fund for Japan では、1日に28,000人もの方が来場したライブエリアの他にも、オーガニックフードエリア、キッズエリア、キャンプサイトなど広大なエリアを使用しています。

この広大なエリアを使用し大規模なイベントを運営するためには、照明をはじめとし、音響、映像など多くのエネルギー（電力）が必要です。エネルギーの消費量を削減することはもちろんですが、燃焼時に

CO₂を排出する石油などの化石燃料の代わりに、代替燃料や再生可能エネルギーなどのより環境にやさしいものを選ぶことで、できるだけ環境負荷の少ないイベント作りに取り組んでいます。

再生可能エネルギー／グリーン電力 —太陽光発電—

ap bank fesでは2005年の初開催より、グリーン電力証書システム（※1）を使い、ライブエリアで使用する電力にグリーン電力を採用してきました。

2011年は昨年に引き続き、会場のヤマハリゾートつま恋が、地元掛川市の推進する「エネルギーの地産地消仕組みづくり事業」に賛同。掛川市の一般住宅（約100世帯）に設置された太陽光パネルで発電され

る電気を「グリーン電力証書」として購入することにより、ライブエリアで使った電力は、グリーン電力でまかなわれるものとみなされました。

また、今年はkoti marketエリアに、太陽光パネルを設置。日が射して気温が高い時には、太陽光で発電した電気で動くミストシャワーでみなさんを涼しく潤し、間近で自然エネルギーを体感していただきました。



代替燃料 —バイオディーゼル燃料—

ライブエリア以外のエリア（オーガニックフードエリア、キッズエリア、キャンプエリアなど）では、発電機を使用し電力をまかっています。発電機で使用する燃料は、通常使用される軽油ではなく、環境負荷の少ないバイオディーゼル燃料（BDF＝Bio Diesel Fuel※2）を使用しています。

2011年は前年より730ℓ多い、9,630ℓのBDFを使用しました。これは東日本大震災発生により発電機の需要が高まり、旧型の発電機を使用しなくてはならなかったため、燃費が低下したことによるものです。

BDFは、環境負荷の少なさと化石燃料の枯渇に伴う代替燃料の必要性から需要が伸

びています。近年では、ごみの収集車、バスなどの公共交通機関などでも使用され注目される一方、植物を原料としているために懸念される。穀物の供給不足から起きる食糧問題や森林破壊などの問題点も見逃せません。ap bank fesでは、そのような背景も考慮し、てんぶら油などの植物性廃食油をリサイクルして作られたBDFを使用しています。

また、オーガニックフードエリア内の飲食店から出た廃食油も捨てずに回収し、BDFの調達先のひとつである常陽産業株式会社によりBDFへとリサイクルされました。



消費電力の削減 —LED照明—

'09より、ライブステージには電力消費を画的に抑えることができるLED（※3）照明を一部採用しています。使用電力の大幅削減と共に、放熱が少ないことにより夏の野外イベントステージに立つアーティストの負担軽減にも繋がっています。

2011年には、東日本大震災の影響による節電対策から一般家庭の照明としてもLED照明の普及が一気に進みました。



※1 グリーン電力証書システムとは——風力や太陽光、水力、バイオマスなどの自然エネルギーによって発電された電力は、電力そのものの価値に加えて、原油や天然ガスなどの化石燃料から発電する従来の電力に比べて省エネルギーやCO₂排出量削減といった環境負荷価値をもちます。この付加価値分を「グリーン電力証書」として証書化し、取引を可能にしたものがグリーン電力証書システムです。自然エネルギーを直接利用出来ない企業・団体・イベントなどでも、このグリーン電力証書を購入することによって、グリーン電力を間接的に購入することが可能になり、CO₂削減などの環境保全に取り組めるほか、自然エネルギーの促進にも貢献することができます。

※2 バイオディーゼル燃料（BDF＝Bio Diesel Fuel）とは——バイオディーゼル燃料（BDF）は、植物性の廃食油・菜種油・ひまわり油・大豆油・コーン油などの植物由来の油から作られた代替燃料。原料となる植物が成長過程の光合成によって大気中のCO₂を吸収しているため、燃焼させてもともと地球上に存在した以上のCO₂は発生しない（カーボンニュートラル）と考えられています。本来食用である植物から燃料を精製する一方で、てんぶら油などの廃食油をリサイクルしてBDFを精製する取り組みも進んでいます。

※3 LEDとは——発光ダイオード。電気を流すと発光する半導体のこと。従来の光源に比べて寿命は長く、消費電力も小さいため、次世代の光源としてその活躍が期待されています。

ごみの削減ポリシー

限りある資源を循環させて利用し、環境への負荷を軽減する「循環型社会」を構築するために必要な行動として「3R」があります。

- ①リデュース (Reduce)：なるべくごみを出さない／②リユース (Reuse)：一度使ったものを、捨てずに繰り返し使う／③リサイクル (Recycle)：使わなくなっ

たものは、資源として再生利用する

ap bank fesでは、イベント全体を通して、ごみの抑制／分別／再生利用を徹底させるため、賛同していただいた企業・団体、出店者や来場者みなさんからの協力を得て、さまざまな取り組みを行っています。出てしまったごみを再生利用 (リサイクル) することはもちろん、

なるべく繰り返し使えるものを選んで使う (リユース)、そして最終的には資源の消費を減らし、根本からごみを出さない (リデュース) を日頃から意識することで、少しずつでも美しい地球と豊かな資源に恵まれた生活を未来につないでいきたいと考えています。



ごみのこと①

マイ箸・マイカトラリー、マイ食器

野外イベントで飲食時に使う割り箸、使い捨てカトラリー、紙皿などのごみを減らすため、一人ひとりができる取り組みとして ap bank fes では来場者にマイ箸・マイカトラリー、マイ食器 (カップ・ディッシュ) の持参をお願いしています。そのため、飲食店でのわりばしや使い捨てカトラリーの無料提供はせずに、忘れてしまった人は会場内にあるカトラリースタンドで、間伐材からできたお箸やカトラリーを1つ50円で購入することができます。

繰り返し使えるものを使用することでごみの量を減らすことができ、お気に入りのマイ食器に盛りつけてもらえば、さらにおいしく感じられるはず。この取り組みは

年々広まり、会場でもマイ箸やマイ食器で食事をする姿を多く見かけました。

おいしく食べた後は、エコステーション内の洗浄所で来場者自身が洗い、繰り返し使う (リユース)。洗うときも、食器についた汚れを古布で拭き取り、洗浄で出る排水を減らすひと工夫 (※)。

ap bank fes では、我慢してごみを減らすのではなく、楽しくごみを減らすことを体感していただけるようにしています。

※古布は、ap bank 融資先の株式会社ウインローダーならびに花嫁わた株式会社との協力により、不要になった布製品を回収したものを再利用しました。



拭き取って洗おう、マイ食器

水質汚染の大きな原因となっている「生活排水」。なかでも、調味料や油が付いた食器をそのまま洗い流す台所からの排水による影響が大きいと言われています。

食器を水で洗う前に、食器に付いた汚れ

を古布で拭き取ることで、排水そのものの汚れも軽減でき、水を必要以上に使わずに食器をきれいにできます。普段の生活にも取り入れやすいアクションです。

column

古々米で作られたごみ袋

会場で配布されたごみ袋は、古くなった備蓄米などの食用に適さなくなった「古々米」を原料の一部に使用した「バイオマスプラスチック」できています。このごみ袋は、ポリエチレンのごみ袋と比べて、

燃焼カロリーが低いため焼却炉に優しく、有毒ガスの発生もありません。CO₂の発生量も30%削減できます。何気なく配られていたごみ袋からもしサイクル技術を感じていただきました。



ごみのこと②

リユース食器

ap bank fes では、食事や飲物の提供で必要になるお皿やカップもごみにならないよう、使い捨てのものではなく繰り返し使える「リユース食器」を導入しています。2005年の初開催時からリユースカップを試験的に導入。回を重ねるごとに少しずつ使い捨て食器からリユース食器へシフト

し、4回目となった'08には、イベント期間中を通して、リユース食器を全面的に導入し運営することが出来ました。以降、この取り組みを継続しながらも、'10からは「マイ食器」の持参を推奨し来場者の実際のアクションに繋げる取り組みも行っています。



リユース食器の仕組み

リユース食器の運営は、多くの方々のアクションによって実現しています



実績

リユース食器の導入によってごみの削減が可能。一方、その運営には、食器の運搬や洗浄など、さまざまなところでエネルギーを消費しています。そういった点にも目を向け、なるべくエネルギーの負荷を減らし、かつ、この仕組みを継続できるよう、会場内でなるべく洗浄せずに運営できる必要数を見極め、必要最小限のリユース食器で出来る限り無駄の出ない運営を心がけています。

'09より継続して、主にリユースカップを優先的に洗浄し、1つのカップを2.3回分使用することができました。

ap bank fes '11 Fund for Japan リユース食器導入実績

	リユースディッシュ	リユースカップ
利用個数 (総数)	141,652 枚	99,434 個
回転数 ※	1.1 回転	2.3 回転
紛失個数	1.8% (2591 枚)	5.5% (5464 個)

※ 食器1つにおける、イベント期間中の使用回数

column

掛川駅周辺のごみ拾い

イベント会場そのものだけでなく、会場周辺や多くの来場者が使用する最寄駅まで、できるだけごみのないキレイな状態でイベントを終了させたいという考えから、NPO法人green birdと地元のNPO法人掛川若者支援会の協力のもと、掛川駅周辺のごみ拾いをイベント開催期間と終了翌日の朝に行っています。'07より続くこの取り組みは、毎回地元の方々や ap bank fes 来場者、なかには2度目や3度目の参加の方などたくさんの方が積極的に参加してくださり、ごみを拾いながら、参加者同士楽しくコミュニケーションを取っていただける場にもなっています。





ごみのこと③

ごみの分別とそのゆくえ リサイクルの取り組み

イベントを開催するにあたりどうしても出てしまう「ごみ」も、きちんと分別回収し、適切にリサイクルすれば「資源」として有効活用することができます。

ap bank fesでは、初開催時からごみを10項目以上に分別し回収およびリサイクルを行ってきました。その分別項目は、過去のごみの排出データを元に、新しい技術や地域内循

環など、より適正により効果的にリサイクル出来る方法を検討しその都度決定しています。

ap bank fes'11 Fund for Japanでは、14項目（来場者11分別、出店者・運営は+3分別の14分別）の分別を行いました。

リサイクル委託先については、運搬にかかるエネルギー負荷も考慮し、できるだけ地元や静岡県内の企業に委託しました。

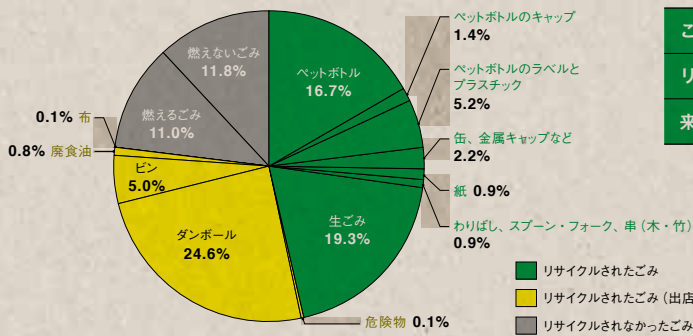


●ap bank fes'11 Fund for Japan ごみの14分別とそのゆくえ

来場者／出店者／運営から排出されたごみ（11分別）				
分別項目	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
1 ペットボトル	3660kg	→ 分子レベルに分解して、ポリエステル原料に	→ ポリエステル繊維	帝人株式会社
2 ペットボトルのキャップ	310kg	→ 洗浄・破碎してふたたびペレットに	→ プラスチック製品	株式会社エコネコル
3 ペットボトルのラベル、プラスチック（食べ物の汚れがついていないもの）	1130kg	→ 分解し、紙や木材と混合して固形燃料に	→ RPF（固形燃料）	株式会社エコネコル
4 缶（アルミ、スチール）、金属キャップなど	490kg	→ 素材ごとに選別・溶解し、再び鋼材に	→ 缶・金属製品	株式会社エコネコル
5 紙（食べ物の汚れがついていないもの）	192kg	→ 溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	→ 再生紙	市栄産業株式会社
6 わりばし、スプーン・フォーク、串（いずれも、木・竹のもののみ）	204kg	→ 洗浄・破碎し、燃料資源に	→ 燃料チップ	株式会社イーシーセンター
7 生ごみ	4214kg	→ 水分と養分を調整して飼料化	→ ぶたの飼料	有限会社ひがしぐるま
8 危険物	12kg	→ それぞれの製品ごとに分別し、適正に処理		—
9 布（食べ物の汚れ拭き取り古布の回収専用）	31kg	→ 燃えるごみとして処理		—
10 燃えるごみ（食べ物の汚れがついた紙、特殊加工された紙ごみなど）	2406kg	→ 一部熱利用し、一部埋立処分		—
11 燃えないごみ（食べ物の汚れがついたプラスチック、ビニール類）	2582kg	→ 一部熱利用し、一部埋立処分		—

出店者／運営からのみ排出されたごみ（+3分別）				
分別項目	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
1 ダンボール	5370kg	→ 溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	→ 再生紙	株式会社市川商店
2 ビン	1091kg	→ 素材ごとに分別して破碎、カレットに	→ ビン・ガラス製品	株式会社エコネコル
3 廃食油	181kg	→ 精製し、バイオディーゼル燃料へ	→ BDF 燃料	常陽産業株式会社

●イベントで出たごみの割合



●実績

ごみの総量	21,873kg	（前年比：313kg 減）
リサイクル率	77.1%	（前年比：0.8% 低下）
来場者1人あたりのごみの量	173.1g	（前年比：3.0g 減）

実績と考察

ap bank fesで行うごみの分別やリサイクル方法は、開催毎に決定しているため、毎回必ず同じではありません。また、来場者数や出店店舗数、飲食店の提供メニュー、天候などの条件も異なるため、分別項目ごとの排出量のみを一概に比較することはできません。しかし、その分別項目ごとに、その回の条件に照らして排出量を分析する

ことで分かることがたくさんあります。

来場者総数は、前年よりも3,000人多い84,000人でしたが、ごみの総排出量は前年比約313kg（0.09%）削減することができました。しかし、ごみの総排出量が減量できた反面、前年に比べ生ごみが499kg増加する結果となりました。生ごみの排出量は飲食店で提供されたメニューに起因する

ところでもあり一概には言えませんが、来場者数の増加も理由の一つと思われます。一方で、ペットボトルは前年に比べ796kg減と排出量が大きく減りました。これは、快晴で猛暑だった前年よりも天候が落ちついていたことによると考えられます。それにより、リサイクル率は77.1%と前年比0.8%下向という結果になりました。



ごみのこと④

ごみのゆくえレポート

「ペットボトルのキャップ」のリサイクル

会場でみなさんに分別して頂いたペットボトルのキャップは、静岡県富士宮市の株式会社エコネコルで洗浄・破碎後、愛知県稲沢市のいその株式会社で再びペレットに加工され、雨水口のマンホールに生まれ変わりました。

●回収・洗浄・破碎



●補強材・難燃材・添加剤を配合



●加熱して、ペレット化



●テスト品を試作し、様々な強度テストを実施、検査に合格したもののみ出荷されます。



●これを各メーカーで加熱・成型し、再びプラスチック製品に生まれ変わります。

強度を下げずにプラスチックをリサイクルするためには、その加工に技術が必要ですが、いその株式会社で製造されるリサイクル材は高品質な為、様々な分野の国内大手メーカーに採用されています。

いその株式会社では、年間販売量の6分の1がリサイクル材の販売です。生活雑貨をはじめ、家電製品・建築材料・自動車部品まで様々なリサイクル材を製造しています。しかし、リサイクル材を使用していることをうたっていないメーカーも沢山あるそうです。それは、リサイクル材が新材より劣っているというイメージが強く、消費者に受け入れられにくいということに原因の一つがあるということです。

工場長の河田さんは、子供に「お父さんがこの材料を作ったんだよ。」と自慢できる広く認知される製品にリサイクル材が使用された時が嬉しいと言われていました。安全基準に厳しい自動車部品にも使用されているほど高品質なリサイクル材であっても、購入する消費者の意識が変わり、選択が変わらなければ、リサイクル材であると伝えることを控えることも多いそうです。昔ながらのイメージだけで判断をするのではなく、リサイクル技術の進歩を知り、リサイクル材を使用しているものを選んで購入する人が増えれば、メーカーももっとリサイクル材の使用に積極的になるのかもしれない。



回収されたペットボトルのキャップ



洗浄後、細かく破碎されます



雨水口のマンホールに！

column 1

ごみの分別辞典

日常生活で出るごみは通常自治体により回収されますが、その分別項目や回収方法は自治体毎に異なります。

ap bank fesのごみの回収は、開催毎に設定される独自の分別項目に従い行っています。全国各地から集まる来場者や出店者の皆さんに普段とは違うごみの分別を行っていただくにあたり、より正確にスムーズな分別ができるよう「ごみの分別辞典」を作成しています。

ごみの分別辞典は、来場者のごみの分別をナビゲートするボランティアスタッフや出店者に配布され、分別に迷った際のガイドとして利用して頂きました。

例:生ごみはブタの飼料にリサイクルしています。通常、肉や魚の骨は生ごみですが、固くてブタが食べれないので、燃えるごみに分別しています。

column 2

ごみの計量

会場で分別回収されたごみを、それぞれ項目ごとに計量し、その数値をリアルタイムで公表しています。排出者毎に計量データを取ることで、より詳細なデータの蓄積が可能となり、どこからどんなごみがどれだけ出ているのか、データを分析し、分別項目やリサイクル方法が適切であったかなどを検証しています。



column 3

ペットボトルの圧縮

真夏の野外イベントでの水分補給に便利なペットボトル飲料。今年もおよそ3.6トンもの使用済みペットボトルが回収されました。ペットボトルは、会場内のthink wasteブースで圧縮され、大きなキューブ状の塊にされます。そのまま運搬するととてもかさばるペットボトルですが、圧縮し減容することで、運搬車両の台数の削減によって運搬にかかるエネルギーや環境負荷を軽減することができます。





お金のこと

ap bank fes '11 Fund for Japan 収支報告

ap bank fes は初開催時よりイベントで
得た収入と制作にかかった費用、そして皆
さまのご協力により残すことができた金額

(収益)を、責任を持って持続可能な社会づ
くりの為に使用していく決意を込めて公開
しています。

ap bank fes '11 Fund for Japan では、
収益はすべて東日本大震災の復興支援のた
めに使われます。

ap bank fes '11 Fund for Japan 収支報告(2011年11月末現在)

(単位:円/消費税込)

チケット収入	¥9,000 / 1日券	7月16日(土) / 17日(日) / 18日(月・祝) 合計: 78,803 枚	¥709,227,000
	¥27,000 / 3日券	合計: 655 枚	¥17,685,000
	¥14,000 / 1日券+エコレゾキャンプ券	7月16日(土) / 17日(日) / 18日(月・祝) 合計: 2,147 枚	¥30,058,000
	¥32,000 / 3日券+エコレゾキャンプ券	合計: 176 枚	¥5,632,000
	¥4,000 / 1日駐車券 ¥11,000 / 4日通し駐車券 ¥4,500 / 1日駐車券(当日)	1日券(7月15日(金)、16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)) / 4日通し券 合計: 6,970 枚	¥29,655,500
チケット	物販	オフィシャルグッズ(9月4日までの通信販売含む)	¥276,227,700
	フードエリア収入	フードエリア出店料、販売ロイヤリティーなど	¥46,306,679
	協力金	賛同企業(株式会社エンタテインメントプラス、麒麟ビール株式会社、 佐川急便株式会社、サントリー、JR東海) ※50音順	¥27,480,000

収入合計 ¥1,142,271,879

イベント制作費	ライブエリア	ステージセット、舞台監督、大道具、音響、照明、映像、特効、運搬など	¥213,760,486
		楽器テクニシャン人件費、楽器レンタル費、調律など	
	フードエリア	テント、看板、運搬、音響、照明費など	¥111,898,029
		出店管理経費、ワークショップ制作費、eco-reso camp運営費など	
	環境対策費	ごみ対策費、エネルギー対策費、トイレ管理費など	¥15,412,564
現地制作費	会場費、会場設営費(プレハブ・仮設トイレ・看板など)、舞台設営費、会場外設営費、人件費など		¥95,551,046
	移動費、車両費、シャトルバス、駐車場運営・使用料など		¥54,294,556
	食事代、ケータリング代など		¥22,578,717
	アルバイト・警備員費など		¥61,986,683
	著作権使用料、運営雑費、花火、制作協力費など		¥29,189,805
出演アーティスト経費	出演者・ヘアメイク・スタイリストのギャランティー・交通費など		¥41,674,950
移動宿泊費	宿泊(出演者・スタッフ・ボランティア・関係者など)		¥47,176,450
	移動(スタッフ・ボランティア・関係者、レンタカー、市内移動費など)		
イベント運営費	チケット販売手数料、チケットバンド・グッズ・STAFF Tシャツ制作費など		¥176,306,667
	中止保険、リハーサルスタジオ代		¥53,880,875
	制作物広報費(オフィシャルサイト制作費、ラジオ番組制作費、オフィシャルカメラマン撮影費など)		¥11,301,402
	諸経費(消耗品費、雑費など)		¥7,058,906
仙台パブリック ビューイング経費	制作協力費、パブリックビューイング映像費・中継費など		¥9,493,797

支出合計 ¥951,564,933

収支 ¥190,706,946

賛同企業とは、ap bank fes '11 Fund for Japanの趣旨に賛同いただき、イベント制作にご協力いただいた企業です。
企画・制作を担当した鳥龍舎スタッフ分の経費については、移動交通・宿泊等実費のみを経費計上しています。
上記収益はすべて、ap bank Fund for Japanを通じて東日本大震災の復興支援に充当します。



イベントのこと

公演実施概要

公演名	ap bank fes '11 Fund for Japan (エービーバンク・フェス・イチイチ・ファンドフォージャパン)
日程	2011年7月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)
会場	ヤマハリゾート つま恋 〒436-0011 静岡県掛川市満水2000番地
場所	つま恋敷地内 ライブエリア:多目的広場 / オーガニックフードエリア:グリーンスポーツ広場、第2多目的広場 / その他

時間	開園 08:00 つま恋南ゲート 開場 09:00 ライブエリア / オーガニックフードエリア 開演 12:00 終演 19:00 閉場 21:00 ライブエリア / オーガニックフードエリア 閉園 22:00 つま恋南ゲート
----	--

チケット	3日券(立ち見ゾーン、ブロック指定なし) / 3日券(ゆったりゾーン、ブロック指定なし) —— 各 ¥27,000 (税込) 1日券(立ち見ゾーン、ブロック指定なし) / 1日券(ゆったりゾーン、ブロック指定なし) —— 各 ¥9,000 (税込) エコレゾキャンプ券 —— ¥5,000 (税込)
------	---

前夜祭 eco-reso+ (plus)	●開催日時 7月15日(金)13:00 開場 ~ 21:00 閉場 ●開催場所 オーガニックフードエリア koti、piha、koti market、kurkku village / キッズエリア puu のみオープン ●料金 入場無料(ただし、つま恋の入園料については下記のとおり) ※7月16、17、18日のいずれかのap bank fes '11 Fund for Japanチケット(3日券を含む)の提示でつま恋の入園無料 ※ap bank fes '11 Fund for Japanチケットをお持ちでない方は、つま恋入園料(大人1,000円、小人500円、幼児無料)が必要 ※つま恋は17:00以降は入園無料 ●交通 掛川駅~会場までの無料シャトルバス運行
----------------------------	--

eco-reso camp	●開催期間 7月15日(金)13:00 ~ 7月18日(月・祝)14:00(最終日18日の終演後の宿泊はなし) ●場所 つま恋敷地内 ゴルフショートコース ●料金 上記「チケット」参照
---------------	--

動員数	●本番日 約84,000人(各日約28,000人 × 3日間) ●前夜祭 約4,000人
-----	---

主催	ap bank
企画・制作	ap bank / OORONG-SHA
賛同 (50音順)	株式会社エフエム東京(TOKYO FM) 麒麟ビール株式会社 佐川急便株式会社 サントリー JR東海 静岡新聞社 静岡放送(SBS) 大日本印刷株式会社 TOWER RECORDS 株式会社TBM パタゴニア ヤマハ株式会社 株式会社ロボット
環境対策協力 (50音順)	A SEED JAPAN イーオクト株式会社 株式会社イーシーセンター 市栄産業株式会社 株式会社市川商店 株式会社ウインローダー 株式会社エージー・ジャパン 株式会社エコネコル 株式会社グリーンシンク 静岡油化工業株式会社 常陽産業株式会社 帝人株式会社 農業生産法人 有限会社ひがしぐるま レコテック株式会社
会場運営協力 (50音順)	株式会社eライフ コンサベーション・アライアンス・ジャパン サンタフェ ナチュラルタバコ ジャパン株式会社 ティンバーランド THE NORTH FACE 株式会社バシフィックネット ザ・ボディショップ ヤマハ発動機株式会社
協力	掛川市 / つま恋
運営	SUNDAY FOLK PROMOTION

URL http://fes.apbank.jp

ap bank のこと①

ap bank とは

ap bank は、環境プロジェクトなどへの融資をはじめ、持続可能な社会を創るためのさまざまな活動を行う組織です。

音楽プロデューサー小林武史とMr.Childrenの櫻井和寿に、坂本龍一氏を加えた3名が自己責任において拠出した資金をもとに、2003年に設立されました。

ap bankの「ap」は、「Artists' Power」のAP、そして「Alternative Power」のAPでもあります。

市民やNPO団体、法人による環境などに関するさまざまなプロジェクトへの融資事業をはじめ、「eco-reso（エコレゾ、eco-resonanceの略）＝無理なくポジティブなエコ意識を共振させていこう」という思い

のもと、いろいろな活動を行ってきました。

「快適で環境にもよい未来に向けた暮らし」を実践する場、「kurkku（クルック）」の設立コンセプトプロデュース、音楽を通して環境への意識を共振、実感する場としての「ap bank fes」などの音楽イベントの開催、自然災害時の被災地支援を行う「ap bank 基金」など、その活動は多岐にわたります。

2009年には、融資という形でのプロジェクト支援事業をふまえ、さまざまなプロジェクトに「出資」や「投資」を行い、より主体的に事業を展開していく「明日（あす）ラボ」というセクションを設置しました。現在、循環型農業のモデル作りに挑戦する

「株式会社 耕す」を立ち上げています。

また、2011年3月11日に発生した東日本大震災を受け、被災地復興支援のための「ap bank Fund for Japan」をスタート。義援金や復興支援金の募金受付、被災地での炊き出し、復興支援ボランティアの募集・派遣といった復興支援活動や、実際に現場で復興支援活動を行う団体やプロジェクトの支援などを行いました。

ap bankは、命を支える食やエネルギーの在り方、そして経済や社会の在り方について見つめ直し、一人ひとりが責任を持って参加出来る持続可能な社会づくりを目指して、ますます活動の場を広げていきます。

<http://www.apbank.jp>

ap bank のこと②

ap bank fesとは

ap bank fesは、音楽を気持ちのよい場所で楽しみながら、環境問題をより身近に、より前向きに考えることができる場として、また、さまざまな取り組みの実践の場として始まりました。

ライブステージでは、小林武史と櫻井和寿を中心に結成されたハウスバンド「Bank Band」とゲストミュージシャンの競演、オーガニックフードエリアでは、環境にも体にもやさしい食事や環境に配慮した商品の販売、持続可能な社会創りに関するさまざまなテーマで繰り広げるトークショーやワークショップなどを来場者に楽しんでいたきながら、「eco-reso」を感じていただける空間づくりを心がけています。

また、環境負荷の少ないイベント創りを目指し、自然エネルギーや代替燃料を部分的に導入するほか、ごみの削減とともに再

利用を促進する分別回収を徹底して行うなど、さまざまな環境への取り組みを積極的に取り入れ、実践してきました。

7回目となったap bank fes '11 Fund for Japanでは、東日本大震災をふまえ、会場で使うエネルギーやごみのこと、環境への取り組みなどを改めて見直しました。そして、これまで取り組んできた環境対策ひとつひとつを、丁寧に、出来る限り必要最小限の環境負荷でイベントを運営できるよう努力しました。そのほか、会場では、復興支援やエネルギーをテーマにしたトークやブースの展開など、これから私たちができることを考えるきっかけとなるような取り組みを行いました。

これまで、ap bank fesの収益はap bankの活動資金、融資原資、環境を始めとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金に充当されてきましたが、7回目と

なったap bank fes '11 Fund for Japanでは、東日本大震災の発生を受けスタートさせたap bank Fund for Japanをふまえ、イベントの収益のすべてを復興支援に充当します。

<http://fes.apbank.jp>

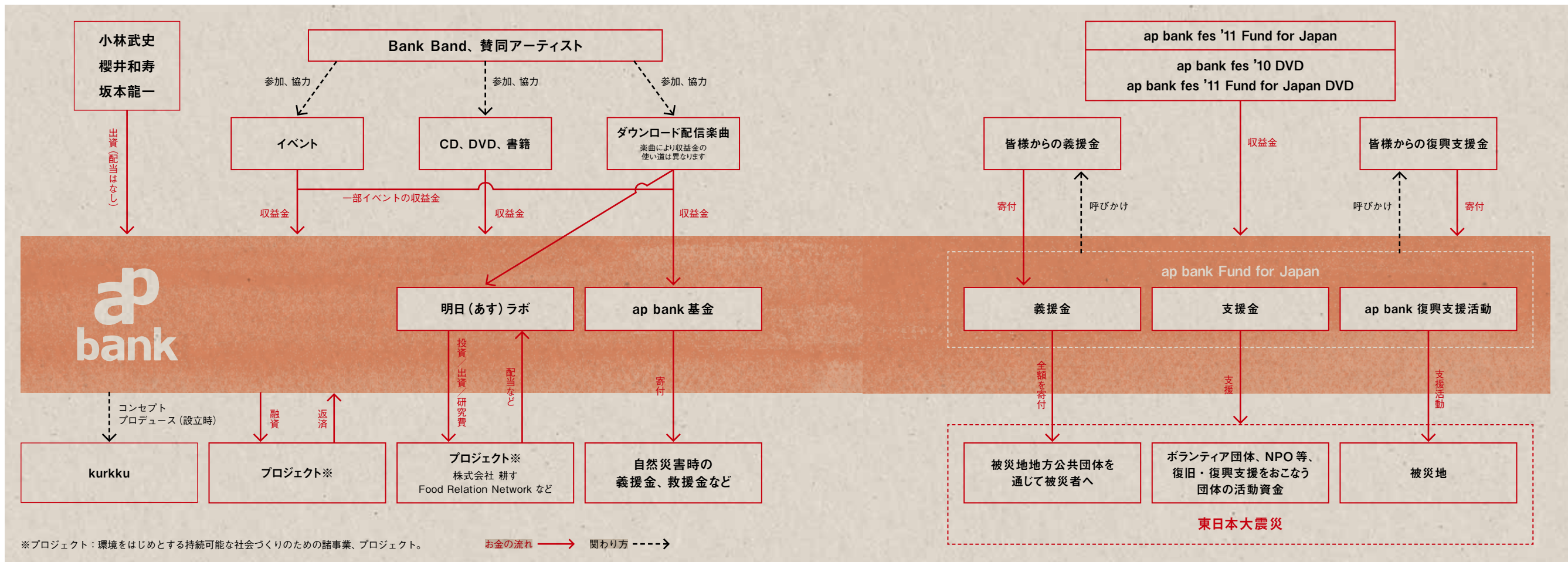
● 動員実績	
ap bank fes '05	6万人
ap bank fes '06	7万5000人
ap bank fes '07	2万7000人 (台風のため1日のみの開催)
ap bank fes '08	8万1000人
ap bank fes '09	8万4000人
ap bank fes '10	8万1000人
ap bank fes '11 Fund for Japan	8万4000人

お金の流れ図

ap bankが活動をしていくうえで必要な資金は、ap bank fesなどのイベントの収益及びCDやDVD、書籍、ダウンロード配

信などのリリース物の収益など、Artists' Power（アーティストパワー）によって生み出されています。

こうして得た資金は、持続可能な社会創りのために使用していきます。



おわりに

3月11日のあの日。

東北の地にボランティアスタッフとして足を運ぶことができたあの時。

ap bank fes '11 Fund for Japanが開催されたあの日。

そして今この瞬間も、

私たちの身の周りでは本当にいろいろなことが、今もって変わり続けています。

わかったこともたくさんありますが、今もまだわからないこともたくさんあります。

私たちが2011年のフェスを制作する日々で感じたことは

「私たちにできること」を注意深く探し、きちんと見つめ、

参加していくことが大切なのではないかということです。

それは

目を向けるのをやめてはいけないこと。

知ることを求めていくこと。

そして意思をもって変化していくこと。

すべてにおいて私たち全員が当事者であるということへの自覚でもあると思うのです。

そして

あの時出会って繋がることができた人もいて、

まだ出会っていない誰かもきっとどこかにいるように、

私たちにはたくさんの可能性があることを知り、

理解し合い、選択をしていくことができるのです。

ap bank fes '11 Fund for Japanの記憶とともに

すべての方にとって3月11日が、そして共に過ごした夏のこの数日が、

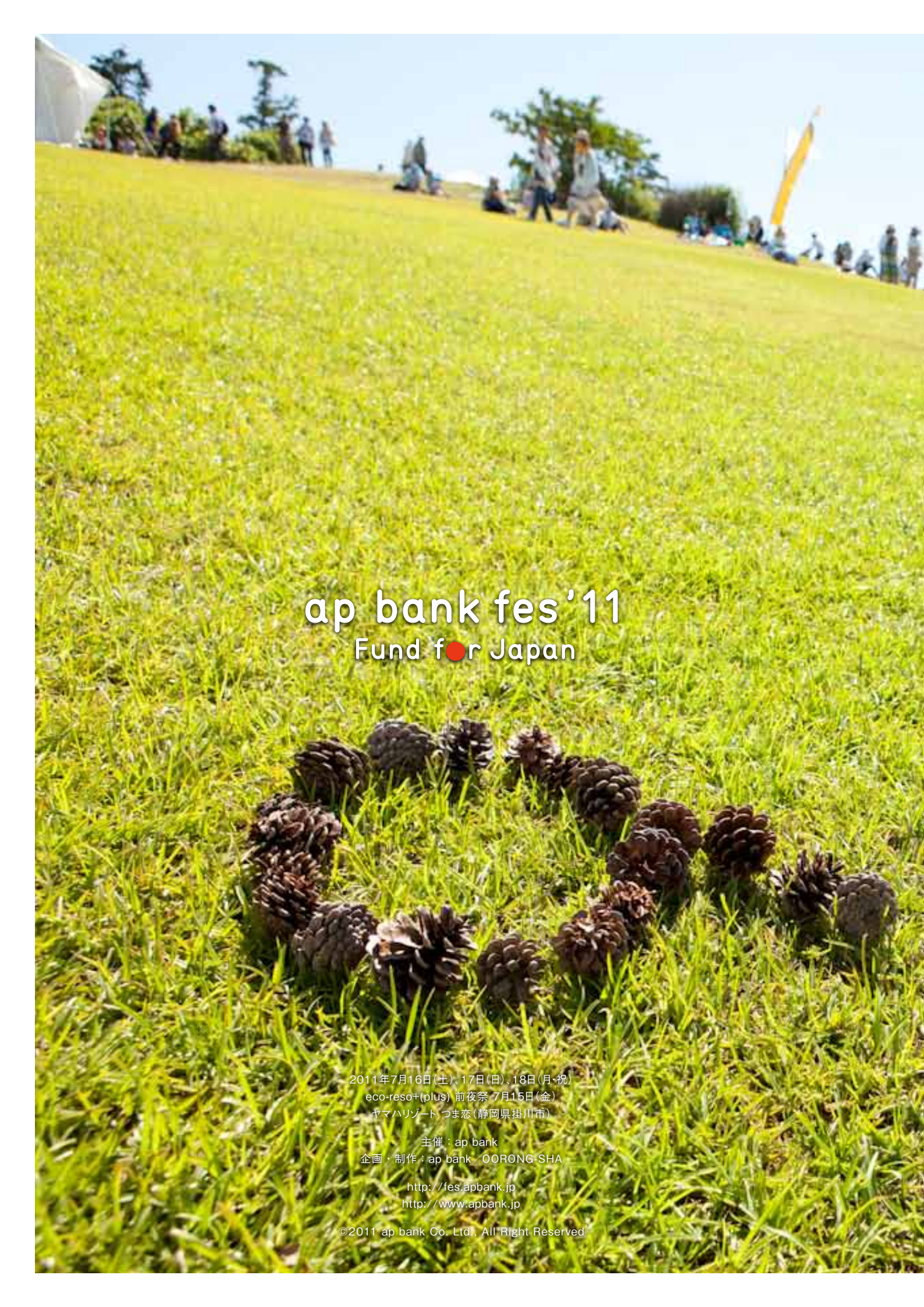
かけがえのない日として刻まれますように。

ap bank fes '11 Fund for Japan 事務局

ap bank fes '11 Fund for Japan 環境報告書

制作 ap bank / デザイン 楠まさみ

この印刷物は、環境に配慮したグリーンプリンティング認定工場で作りました。焼却時のダイオキシン発生量が少ない「無塩素漂白パルプ紙」、VOC発生量を低減できる「植物油インキ」、イソプロピルアルコール（VOCの一種）等を含む有害廃液を出さない「水なし印刷」を使用しています。また、「CTP（Computer to Plate）」方式の採用により製版用現像液やフィルムを全廃しています。



ap bank fes'11

Fund for Japan

2011年7月16日(土)、17日(日)、18日(月・祝)
eco-reso+(plus) 前夜祭 7月15日(金)
ヤマハリゾート つま恋(静岡県掛川市)

主催 : ap bank
企画・制作 : ap bank / OORONG SHA

<http://fes.apbank.jp>
<http://www.apbank.jp>

©2011 ap bank Co. Ltd., All Right Reserved